

広  
報

社会福祉法人

# 静岡いのちの電話



(写真提供 三島市)

## CONTENTS

- ▶「宗教はいらないよ」  
理事 中山秀子 …… 2
- ▶報告・お知らせ
  - ・フルボンヌ氏講演会開催 …… 3
  - ・相談員全体研修会 …… 3
  - ・自殺予防週間街頭キャンペーン …… 3
  - ・「一人で悩まないで」ポスター配布 …… 3
  - ・電話相談ボランティア事前説明会 …… 3
  - ・大道芸ワールドカップで広報 …… 3
  - ・映画会のご案内 …… 4
  - ・電話相談員募集 …… 4
- ▶養成講座に応募した時のこと …… 4
- ▶分室だより …… 4



### 文教町 イチョウ並木

三島駅北口から徒歩8分程度の県道沿いに広がるイチョウ並木です。大正時代に植樹されたイチョウが、600mにわたって約9m間隔で117本植えられています。

黄金色に色づくこの時期になると、ついこの道を通りたくなくなる文教地区のシンボルです。 (1)



# 「宗教はいらないよ」

静岡いのちの電話理事 中山 秀子

研修委員を辞し、相談員をも退いて何年でしょうか。時の流れの速さに驚嘆しております。静岡いのちの電話が誕生して後、歩むほどにセンターとしての課題を抱えるものとの認識が私にはありますが、如何でしょうか。

課題。それは全国どのセンターにおいてもあること。役目を下りた私が軽々に言葉にすることではないと慎み、バラ色の回顧にならぬよう過ぎし日をふりかえってみたい。

さて、脳裏に浮かぶ昔のエピソードは、時と共に色褪せ、幾つかは泡のように消え失せているのが正直なところです。かろうじて浮かんでいる一つを掬<sup>すく</sup>ってみます。

ゼロから開局のその日を迎えるまでの数年の苦労は、あって然るべきものであって、時折の小さな楽しい事が、それを和らげてくれました。小さな楽しいこと。それは仕事を終えた夕方に皆で呑むビールですよ。

「とにかく開局しよう」との熱い思いが当時の立ち上げに関与した仲間たちに溢れていましたから、苦労も亦<sup>また</sup>楽しからずや。

あのころ奮闘された皆さま、お元気でいらっしゃるでしょうか。

グリーン画用紙にクレパスで描いた手作りのポスターを携え、役所や公民館を回って、

「静岡にいのちの電話を作りたい」

と、PR行脚をしていたとき、

「宗教はいらないよ」

と、バツサリ撥ねつけられたことがあります。

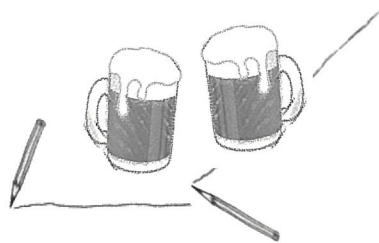
もちろん、宗教ではないと力説しましたよ。

そして闘志を燃やしました。私達には頼れる後ろ盾が無く、お金も無く、あるのはお互いの信頼と情熱だけ。

「開局を見ずして潰れるかもね」と冗談を飛ばしながらも、そうはさせないぞという強い決意がチームにあったからこそ、「開局」に漕ぎつけたと思っています。

あれから二十五年。センターを粘り強く護り続けて今日只今に至った現役の方々のご苦労は、立ち上げ時の苦労の比では無い筈。この文章がお目汚しにしなければ良いかと思いつつ終わります。

この先も力強く前進あれ。





## ブルボンヌ氏講演会を開催しました

7月13日(土)アイセル21(静岡市女性会館)にて、女装パフォーマー、ライターであるブルボンヌ氏による「男らしさ、女らしさより自分らしさが社会を変える ～LGBT・男性・女性とは～」と題した講演会を開催しました。LGBTの人は左利きやAB型の人と同じ位存在し、性的指向も人それぞれ。多様性を認め、自分自身を愛する事が他の人をも愛せる事に繋がる。一人一人が『自己肯定感』を高めていく事が大切だという事を、ユーモアを交え、とても分かりやすい言葉で説明して下さいました。参加者からは「自己肯定感の大切さを認識しました」や「誰に対しても偏見を持たず、苦しみながら生きている人の声に耳を傾けたい」などの意見もありました。参加者180名。(I)

## 第一回 相談員全体研修会

7月15日(月・祝)に静岡市中央福祉センターにて相談員全体研修会を開催しました。長時間達成者の表彰、新メンバーの紹介、理事長からのメッセージ披露等の後、公認心理師・臨床心理士の根本 厚子氏による研修が行われました。今回は「性の電話～私たちにできること～」をテーマとし、日頃の電話相談で相談員が苦勞することが多い性の作話などに、聴き手として孤独や葛藤を抱えながらどう対応していったらよいのか、グループワークや模擬スーパービジョンも交えて学びました。参加58名。(H)

## 自殺予防週間街頭キャンペーンに参加

9月10日から16日までの自殺予防週間に合わせて静岡市が実施した自殺予防街頭キャンペーンに「静岡いのちの電話」も参加しました。キャンペーンはJR静岡駅で午前7時30分から約1時間行われ、駅構内を行き交う通勤途上の人たちに啓発グッズを手渡ししながら自殺予防を呼びかけました。



## “赤い羽根”課題解決プロジェクト募金助成事業 「一人で悩まないで」ポスターを配布

孤独や様々な悩みを抱えて苦しんでいる方々に、一人で悩まず「いのちの電話に」電話をかけてくれるよう呼び掛けるポスターを作成し、8月～9月にかけて県内の東・中部地域の公的機関、精神科医療機関、ハローワーク、青少年施設などへ配布し、掲示をお願いしました。なお、今年は、10代の自殺が深刻な状況にあるため、新たに高校91校にも掲示を依頼しました。

## 電話相談ボランティア事前説明会

今年度初めて募集前に「いのちの電話」を知っていただくための事前説明会を10月に富士市、藤枝市、静岡市で開催しました。電話相談のロールプレーを聞き、知人との会話の違いを体験し、活動に対する質問もありました。電車広告、ポスターを見て、または関係者からの紹介などにより、合計9名の参加がありました。

## 大道芸ワールドカップで「いのちの電話」を広報

今年の「大道芸ワールドカップ in 静岡」は11月1日から4日間開催され、全国から83万人の観客が訪れ、大変賑わいました。日本いのちの電話連盟と静岡いのちの電話では浜松いのちの電話の協力もいただいて、初めてメイン会場の駿府城公園内にブースを出展して、いのちの電話カードやウェットティッシュなどを配布しながら「いのちの電話」の広報を行いました。





## 映画会のご案内



日時  
2025年1月18日(土)  
15:15~

会場  
サールナートホール1F  
(静岡市葵区御幸町11-4)

定員  
200名 入場無料



## 「ハロルド・フライのまさかの旅立ち」

### 申込方法

①氏名②住所③電話番号④申込人数を明記の上、メール (fs4344@shizuoka-inochi.jp) でお申し込み下さい。

## 2025年度 電話相談員募集中



## 2025年度 静岡いのちの電話 電話相談ボランティア募集

かけがえない「いのち」を尊重し、対話する電話相談ボランティアです。私たちと一緒に活動しませんか

### 【応募資格】

- ①年齢は20歳からおおむね65歳まで(2025年4月1日現在)
- ②性別や学歴、資格、経験などは問いません
- ③静岡いのちの電話の活動と基本理念に賛同し、積極的に参加できる人
- ④1年6ヶ月の養成講座に参加できる人
- ⑤電話相談ボランティアとして無償奉仕できる人(交通費も自己負担)

【応募期間】2024年11月1日(金)~2025年2月10日(月)当日消印有効

### 【養成研修期間】

2025年4月~2026年9月  
(月2~3回、各回3時間程度+宿泊研修2回)

【養成研修受講料】3万円+宿泊研修経費約2万円別途

【研修会場】静岡県総合福祉会館「シズエル」(予定)

### 【申込方法】

専用応募用紙を郵送または応募フォームの入力

### 私が電話相談員 養成講座に 応募した時のこと

ある時期「これからの私に何ができるだろうか」そんな気持ちが日々強くなっていく自分がいました。それまでの仕事から離れようとしていた私にはストレスばかりが重く押し掛かり、もう人と拘わるのは『イヤダ!』という思いが膨らんでいました。ともすれば人間不信に陥っていて、人との拘わりを無くしたら気持ちがどんなに楽になるだろう、だからその時の仕事が一段落したらもう静かに過ごそうという気持ちが強かったのです。

そんなある日、偶然にも「いのちの電話」の方の講話を伺う機会がありました。ついさっきまでの私は「もう静かに過ごしたい」と思っていたのに、講話を伺ったその瞬間から『やっぱり私は人間が好き。人は人と拘わってこそ生きる意味を見つける事ができるんだ!』と、目の前が開かれた気分になりました。正直その時の講師のお話の内容は全く覚えていません。でも、その方の口調が私に大きく影響したのかもしれない。「いのちの電話」のボランティア精神が私の心身に染み込んできた気分でした。講話を伺った翌日には「いのちの電話」の事務局に電話して応募要項を取り寄せていました。

心機一転、始まった研修は長く、辛い事もありました。また、上手く言葉に表わすのは難しいのですが何故か私の心を解放させてくれるものがありました。私自身にも現在進行形でいろんな事象が起こっている日々の中で、『それでも誰かに話しを聴いて欲しい。誰かと話したい』と願う人たちに少しでも寄り添っていければと願いながら、これからも心を込めて電話をとらせていただこうと思っています。(Y.Y)

## 三島分室だより

三島分室は、今年の8月で8年目を迎えました。相談員7名でスタートしましたが、先輩方のサポートも得て、着実にこの地に根を下ろしてきました。その間には分室を離れる仲間もありましたが、毎年のように新しいメンバーを迎え、来春には相談員が10名を超えて大所帯?になります。

夏には出張ミニ自己啓発研修が開かれて、本音の言葉で貴重な学びの機会を得ました。

アットホームな雰囲気大切に、無理せずお互いを尊重して進みたいと思っています。(Y)

☆今更ながらではありますが、広報紙はいろいろな想いがこめられ、丁寧に大切に作られた物であるということが、委員会に出席した事によりようやくわかった気がします。(N)

☆はじめて編集に参加し、担当した研修を記事にするのに苦戦しましたが、年間行事を通して多くの事を学ばせていただいている事を再認識しました。(M)

## 編集 後記

☆静岡県公認心理士協会主催 講師: 大久保真紀氏の「声なき声に耳を傾ける」の講演会に参加しました。朝日新聞の記者歴37年の大久保さんは、中国残留婦人たち・虐待を生き抜いた子どもたち・遺伝病の患者たち・災害にあわれた人々などの取材をしています。話したくない人にも会い、体験をひきだし、寄り添っていく。私なんてまだまだ、だと思いました。(T)